



そろばんは頭をよくする魔法の道具。

Let's soroban



◆□ 秋の読上げ算 競技大会 ■◇



10月29日(日)、高見教室にて秋の読上げ算競技大会が行われました。参加者は10月に入ってから週2回ペースで読上げ算の練習を行ってきたこともあり、多くの生徒は本来の実力をフルに発揮できた様子。当日は ●教室に通い始めて日が浅い低中学年が中心のAグループ ●ソロバン上位級をもつ高学年のBグループに分けて実施。どちらのグループも読上げられる数字を聞き逃すまいと普段の10倍くらい集中しながら競技に臨みました。

ソロバン・暗算・英語の3種目での競技でしたが、当日の成績結果を分析してみると、Aグループは暗算の成績が他2種目と比べて低い生徒が大半でした。暗算の練習を始めていなかったり、始めて間もない生徒が多いからですが、暗算力は大人になっても役立ちますので、今後少しずつスキルアップを目指して練習をしていきましょう。

一方のBグループの成績結果は、種目による個人差(バラつき)が著しく、たとえば他種目は好成績なのに英語だけ、またはソロバンだけが極端に成績が低い生徒が目立ちました。3種目ともバランスよく高得点をとることはハードルは高くなりますが、自分の不得手な種目を集中して練習していくと総合的な「珠算力」が身に付きます。特に英語はきちんと数字を聞き取ることが出来さえすれば・ケタ数・ロ数・スピードの点においてはソロバン問題と比べても遥かに簡単なレベル。日頃から身の回りにある数字を英語に変換するように意識しているとアウトプットもインプットもスムーズに理解できるようになります。苦手意識を克服し、「キライ」を「スキ」に変えていこう～!

次の読上げ算オンリーの競技大会は来年4月に実施する予定。

*どうしてそうなるのかは説明できませんが、多くの生徒はペーパー上の数字を見る「見取り算」よりも耳から入ってくる「読上げ算」のほうが成績が良い傾向にあります。目からよりも耳から入ってきた情報のほうが脳がより早く反応するという事なのかも知れません。*当日配布した成績表は「そろばん」と「あんざん」の位置が逆でした(ペコリ)。

*学年や級位に開きがあるAグループは、成績がある程度フェアになるように予め学年ごとに追加点(2年6点、3年4点、4年生以上0点)を設定したため、2~3年生の生徒が多く入賞する結果となりました。

反面、4年生の多くは入賞できずに残念でしたが、本来の実力は過不足なく備えていますし、初経験の英語読み上げにも多くの生徒が対応できたおり、嬉しい驚きでした。次回、またチャレンジしよう～!

	A グループ 30点満点			B グループ 45点満点		
	なまえ	得点	学年	なまえ	得点	学年
優勝	影山 琴	23	4年	林 亜蓮	44	6年
準優勝	加藤 朱峯	22	3年	伊東 大輝	43	中一
	野崎 詩	22	3年	首藤 菜仁	39	5年
3 位	北國 美怜	20	3年	北國 彦彦	31	6年
	鈴木 菜々花	19	2年	伊藤 彩羽	30	6年
	吉田 花風	19	2年	杉石 美心	29.5	6年